

第七十七、六年治 十一月十日 本省伺

元柏崎縣伺、舊高田藩士族新田貞次郎父ニ從テ、同藩士族寺澤七十郎一家三人ヲ殺ス。略 中永
牢ニ處セラル、國法既ニ盡セリ、設樂兄弟外祖父ノ爲ニ、之ヲ仇視ス可ラズ。略 七十郎變死ノ
後、寺澤氏ハ無罪ニテ斷絶シ、貞次郎ハ放免セラル、此兄弟痛忿ニ堪ズ、千辛萬苦遂ニ之ヲ擅殺
スルニ至ル、抑舊幕ノ世ニ在テハ、等親血族ノミナラズ、交友知己ノ爲ト雖モ、復讐雪冤ヲ以テ
義トナシ、榮トナスノ弊風アリ、因テ維新以降大義名分ノ御皇張アラセラレテヨリ、往々人命
ノ重キト、刑典ノ擅ニス可ラザルヲ知ト、雖モ、此兄弟ノ如キ事、維新ノ前ニ在テ弊風ニ泥ミ、其
心只管讐ノ復セザル可ラザルヲ誤領ス、其情狀大ニ酌量セザル可ラザル者アリ、且改定律頒
行ノ前ニ在ルヲ以テ、原律ニ依リ本罪ニ二等ヲ減ジ、閏刑ニ換ヘ、禁錮三年ニ處分可致哉又ハ
減等セズシテ處斷可致哉、別紙口書并刑案相添、此段御裁下ヲ仰候也、(別紙口書并刑案略ス)

〔文政雜記一〕

溝口伯耆守越後新田城主 家來

久米幸太郎

弟 幸太郎 子十八歲

同 盛太郎 子十五歲

板倉留五郎 子四十三歲

右幸太郎、盛太郎、親久米彌五兵衛儀を、文化十四丑年十二月中、於在所傍葦瀧澤休右衛門及殺害、
其場を逃去候ニ付、近郷其外嚴敷尋候ヘ共、行衛相知不申候ニ付、翌寅年三月御帳附御届申達候、
然ル所其砌者、右兄弟之者共幼少ニ候所、追々年頃にも相成候間、近郷者勿論、御府内、何國迄も
相尋、見當次第敵討取申度段、此節願出并 右之留五郎義彌五兵衛弟ニ候間、兄之敵討取申度付而
者、右兄弟之者幼少之砌ニ而休右衛門面體も見覺不申、旁兄弟之者ニ附添罷出度旨是亦願出候
ニ付承リ届、尤休右衛門討留候は、其場之役人江 相届ケ可申旨申付候、依之御帳ニ御記置可被